

——作品編——

- | | |
|-----------------------|--------|
| 「イケダ氏の「ノスタルジス」用 | 北田 全 |
| 「支離滅裂 そのⅡ」 | 北川 良二 |
| 「ある晴れた日」 | 平野 喜敏 |
| 「わが魂に 魚うまで」 | 設楽 敏 |
| ☆「奈良の印象」 | 杉 輝彦和 |
| 「車の町」 豊田 幸 | 青山 博美 |
| 「こんえんていふいくすーはーすていふいふ」 | 小 中 力 |
| ☆「空想的進化論」 | 堀井 次雄 |
| 「郊研子 恋フル歌」 | 加藤 幸雄 |
| 「セックス論」 | 津 田 陽子 |
| ☆「ある夜のひとりごと」 | |

(以上原稿を提出された人たちに対して
氏名をもて表彰します。)

——名大祭資料編——

城 班

- その一、犬山・金山城の謎
- その二、岡崎城
- その三、愛知県内の諸城

民衆班

- 一、一揆研究の意義
- 二、加茂一揆発生の背景
- 三、加茂郡一揆が示すもの
- 四、一揆その後
- 五、終ひ

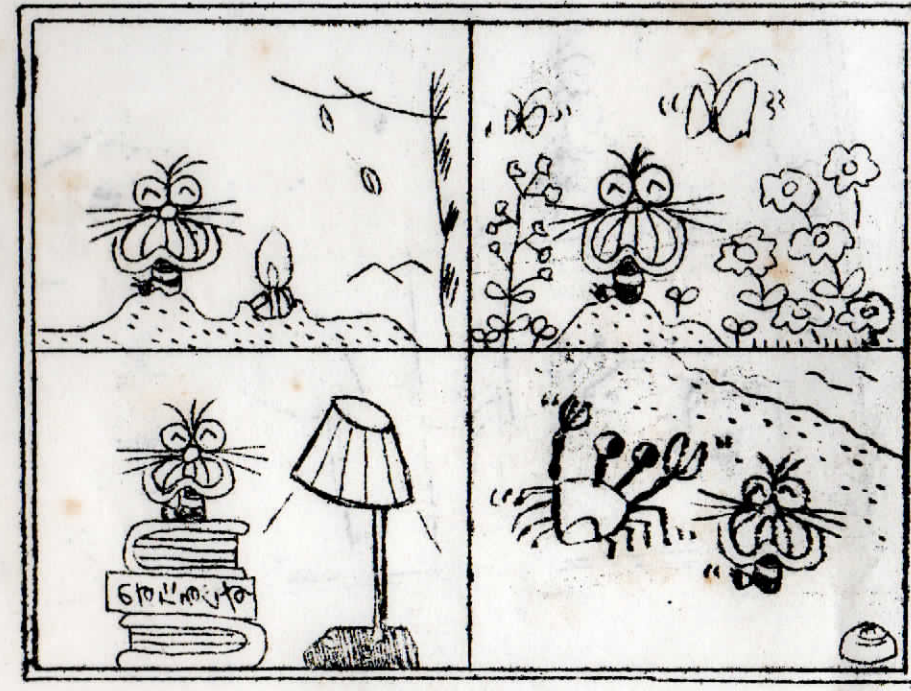
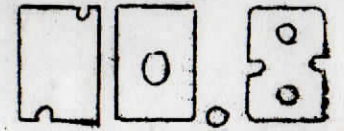
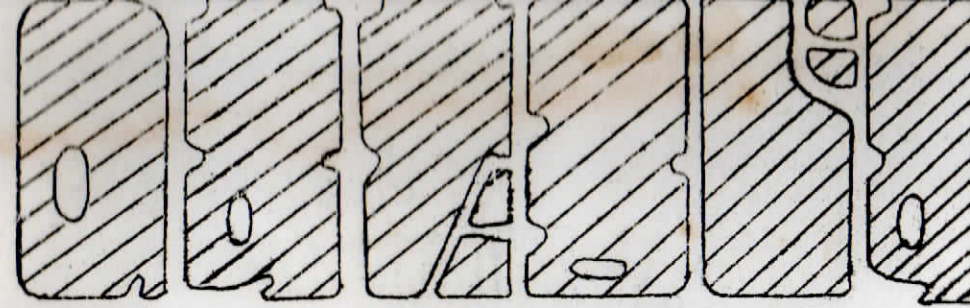
(付) 三河騷擾記 - 松平村誌付録 -

名大郷土研究会会則

名大郷土研究會会員名簿 1970.12現在

郷研部内ニュース

おとけき



作品編

名・ナ・シ・ノ・ゴ・ン・ベ・イ

イケダ氏の「ノスタルジス」用原稿が氏の個人的都合とやらにより、提出されなかつたので、今回は休載といたします。

我が郷土研究会会員諸氏は今後この端を怠慢のないように充分注意されて今後請求がありしたいすみやかに原稿を提出されたく思います。編集局より。

さて、このイケダ氏は、現在阿呆学部^{アホウ}に在学中であり、毎日真面目に出校し、講義中はおさめもふらずに内職、居寝りにはげみ、授業終了後は一途に女性の尻を追いつ追いつ、今だに成果ゼロであり、帰宅してはこれ又バイトにいそしむと言う、学都随一い

「名大郷土研究会」キット使つてね

・女は黙って名大郷土研究会、(一匹だけ余分かな?)

・コ・エ・テ・ル・但・衆・部・デ・ス・

Oh 郷研!!

さて、ナヤランポラン氏が、追いつかぬ女性をふりはらい、痴女にも負けず、夜の巷を、かけずり回り、てふてふ、てふてふと、ついでながら昆虫採集、成果ありやと、衛生産もらい、胸にさげたる一丁拳銃、今度産むがと用心しつつ、男一匹どこへ行く、(ハッ コイイ) さて、これに立ち向うのは、世に名だる、パンパン(達)講釈師の扇の音、くれぐれも誤解のない様に、二つ一家、片や「金太郎つ神田一家」こなた「金太郎けるな一家」、両者のアネゴ連中を

や、迷大随一の模範学生であり、容姿端麗、顔面にあふれたるいやらしさ、何事も黙して語らずと言う沈黙の幽霊、どこに焦臭があるのかわからぬ口ンバリ、のど陰喉中のど陰喉たる氏が毎日ゲータラしているのに原稿を書かないの左不忌蓋に思った当編集局は、この一事を調査するために、当ノスタルジスきつての記者であるナヤランポラン氏に次の様に命じた。

「今晚は、ナヤランポラン君、君の今回の任務は、あの迷大阿呆学部のイケダ某の原稿不提出の原因について調べよ、

例によって、君もしくは君の部下がどの様な事になろうとも当局は一切関知しない、成功を祈るナヤランポラン君、

なおこの文字は自動的に消滅する。」

カ・ジャ・ン(音楽のつもり)

・若さま、もうご存知かしら、アラ、まだ知らないのですか、それじゃヒ、これが御使用ですよ、

カつき、弾もつきてし、その後、やっと得たるこの勝利、みれば戦場黒々と殺られた死体^ヤが山の根、千人切りなど麻の口で、切ったアネゴが五万人、ホレ! 学校出てから十五年と五万部はのりすぎで、そこへあらわれたる正義の味方ならぬ、警視庁、映画^映こんなもの、とくゑかと、カッカ、カッカと叫び込み、こで始まる大喧嘩、これを見たプロデューサー、首が低ぶかとオオアワテ、ここから始まる自主規制、そんな、こんなで放談打ち切り、苦心したるナヤランポラン氏の調査も封鎖され、(秘)となりて五社にでも売られたか、この頃は、マル秘の映画が大はやり、秘密はいずれ漏れるもの、ナヤランポラン氏、日本には機密保持の法律なきため、ほっと胸でなであるし、もらったお金で盗^盗脱器、買つてこれ又ひともうけ、さてこの調査では、イケダ某は猿前、異常さ高じたか、精神錯乱、

は能で一人住い、心持コウ弱、喪失や、失語症やう、痴呆症、自癡、ロンドンと色々にとりまゝめて思ふには、刑法上は無能力、何をやっても無罪よと、策謀・陰謀・偽造と、白い頭で考へてゐるとは、アナ恐ろしや、恐ろしや、


CM ホンホ、ボイの郷研

カカレ

ブラ ジャー 反対

郷研賛成

公害バツケム新登場

行和する バカ者の郷研

う大研究を始めたのであった。どうもこの学者の研究は支離滅裂のムチャクチャもので、その研究の内容はここで発表することはひかえる。

それはそれとして、某派出所が調査した結果によると、これもテレビの悪影響らしいことがわかった。その某派出所のひまな警官、この警官は巡視する時間とさばって、一日中テレビとマンガばかり見て、鼻毛を抜いていたので彼の介抱区域のところはいつも「異常ナシ」ばかりであった。又、3年後には優秀警官として警視總監賞が確実である。そのひまな警官が調べたところによれば、最近の子供は、テレビとマンガの見すぎによつて、悪知恵が付きすぎたのである。なぜって、実に、最近の子供はバナナの皮でひっくりかえらないのである。けしからんのである。昔の子供は純真にもバナナの皮でちゃんとひっくりかえつたものであった。が、最近、バナナの皮では又

支離滅裂そのⅡ

——ぜ、たいにわけのわからない
はなし——

太郎はかつて、こんな話を聞いたことがあった。次の話は、太郎の聞いた話で、某探偵氏が調査した話の内容である。

以前、ある年三月と28日位前の人類諸氏は、よく、ジャハジ・ボン・ババサヒブ・アリストクラシー・アル・アシッド・ジョージ・ストンゴロリー・28世へ注、どこかの国の王様？)のように、バナナの皮にスリッパと靴をミリモチをついたのであった。しかし最近の人類諸氏はめ、たにバナナの皮では靴はきいようになつてしまつた。そこである社会学者はこの原因は、いったいなぜか、今はバナナが安いので(ま、生協で25円だよ)、
確率的、唯物史観論的というと、……であるとい

本尼の人間は車というこの普遍的真理をテレビのマンガやマンガ本にてあまりにも大々的に使いすぎました。たので、最近の子供は、けして、バナナの皮でひっくりかえらなくなつてしまつた。しかし、そのかわりに、あまりにもバナナの方に気をとられすぎて、自動車にぶつかることが非常に多くなつてしまつた。そこでそのひまな警官はテレビのマンガとマンガ本を見ながら、鼻毛を抜きながら、考えた末によると、この世の中から、バナナの皮を追放すれば、子供たちの自動車事故はなくなるであろうという、まさしく水平思考理論による意見書を出し、その某派出所を中心として、「バナナの皮公害絶対粉碎！」という大キャンペーンを展開しはじめたのである。そこで、この話を調査した某探偵氏も大々的に参加することになつたのである。

この話はココデオマリデアル。なぜって、これ以上続けると、この話の收拾がつか

なくなってしまうからである。又、ユノ話
がわかった人は大変である。アナタの「オ
ツム」がイカレテイル可能性があるので、
某探偵氏に調べてもらふ必要がある。
デワ、プチョン。



Who?

『盗作集』

青空

このながい煙筒は
きんなの圓い腕のやうで
空によつて
空は青明な弧球ですが
どこにも重心の支へがない
この全景は象のやうで
妙に膨大の夢をかんじさせる。

萩原朔太郎詩集より



ニロキ!

「ある晴れた日」

わが魂に逢うまで

子の手紙

「ドンドン・ガンガン、うるさいな!
もう起きなさい。8時過ぎだよ。」おふ
くろの声だ。うるさいな! 小生は一人で
はなれの家で寝ている。かぎを内からかけ
ているためおふくろが雨戸を外からたた
いているのだ。腕時計を見ると8時30分だ。
小生は腕時計をめたにはずさない。はず
すときといえは風呂につかっている十数分
だけだ。腕時計をはずして寝てしまうこと
がたまにあるが、そんな日は不思議とお
ふくろがガラス戸をたたいて起こしてくる
前に目がさめてしまう。「もう起きたよ。」
と大声で叫んで、それからふとんを思いき
り足でけり上げる。寒くなってくると、ふ
とんの中でのぬくもりは「ナニ?」と同じ
ような快感を与えてくれる。「ナニ?」って

分向は貴重だ。今日も空はまっ青だ。秋も
十一月になると少し寒い。小ネコが「ニヤ
オオニヤオオ」と鳴いて走ってくる。
名前はないから「ネコ!ネコ!」と呼ぶ。
おふくろは「クロちゃん」と呼んでいる。
寒いからネコをバジマの中に入れた。腹
のところがあつたかい。腹巻さよりもネコ
の方があつたかい。柱時計が「つッポー
ン」と鳴った。もう8時半だ。今日は遅刻
かな。小生は2時向目の講義に向に会うため
には9時25分かつ9時30分の電車に乗りなけ
ればいけない。しかしゆっくりと新聞を読
む。一面の見出しに「社党・中国共産共
に訓示」米帝・日本軍国主義二つの敵に重
卓と大きく書いてある。ゆっくりと一面
から順番に読んでいく。昭和元禄田舎芝
居のてんまつ……三兆円融資詐欺事件の
主犯の弟がつかまつた。四最後にテレビ
ラジオ番組「ク・○○キックボクシング
天村×ロキットヨーン。ク・○○おたの

しみ格蘭デホーリルに見えり・なべおさ
み・じゅんとネネ・岡崎友紀と。もう9
時だ。それから朝食。ゆつくりと二杯食べ
る。9時15分だ。それから長々と一人黙
苦悶する。これは、やはり時間がながいから
といつて省略することはできない。今日は
遅刻だと思ひながらゆつくりと家を出る。
9:46分発の電車にのる。電車の中をキョ
ロキョロ見回す。ミニスカートの女にま
っきり出た足に目が止まる。それから平凡
パンチの広告が目にはいった。―初公開！
大きく変わった杉本エマのバスト―
学校に着いたら7時7分。完全に遅刻だ。
講義に出る気もなくグリーンベルトとい
うところに一人で寝ころがる。真青な空だ。
雲一つない。日ざしが強い。どうして空
は青いのかとふと思ふ。どうしてか、わ
ないが青空はさわやかだ。もう小生も純真
ではなくなつたのか。人間が純真であれ
ばあるほど何のために生きてゐるのかと悩むと

☆余白コーナー

漂流

小っちゃな舟に寝ころがって
私は あをい海原を漂つてゐる
星くづが間近く顔にかぶさる夜には
大きく瞳を睜いて
とほい懐しい風景をそつと想つてみる
泣かうとしても
とうに涙は涸れてしまつた

灰色の波頭がたかく碎ける日には
とめどない悔が私の心をしめつける
どんな思想も 価値も 栄光も
私にはもう要らない

ただいたけない子供になつて
陳腐な守貞に寝かされたい
それゆゑ 破れかけた帆をあげて
むかし私の住んでゐた 星くづの荒む海の涯にこがれるのだ

云われているが。しかしながら小生はそんなことはどうでもよいのだ。生きてゐるから生きてゐるのだ。もちろん、ついでに生きてゐる。ののではないの。ニイ。腹がへつてきた。夜時過ぎると食堂も満員になる。まるで戦時中の配給でもそうかのごとく配膳をもつて並んでいなければいけない。さつぱり時向目の講義にどうしようかどうしようかと考える。又グリーンベルトの芝生の上に寝ころがる。いろんなことが頭に浮かんでくる。かわい子ちゃん笑顔が浮かんでくる。ニナロメも浮かんでくる。ニナロメー！雲がでてきた。少し寒くなった。さて帰るとするか。何のために学校へきたのだらうかとふと思つた。まづすぐ家へ帰るには早すぎるし。といつて他に面白いところがあるわけでもないし。



それにしてもこの小舟は
知らず知らず どうしても逆さまの方へ
れてゆく

まあある空の下のみとりはつちの漂流
その空に 垂しない層が織られ……

ああ 私は泣いてゐるようだ

やうやく来がよみがへつてきたといふのか
夕焼雲が色褪せる頃になると

帆柱につかまつて私は昏れてゆく海原を見
つめる

すると美しい波のうねりが
ふしぎに優しく この小舟を揺りあげるの

「ごくともマンボウ青春記」より



奈良の印象

奈良

秋叶を和同して、三回同奈良の寺々を回つて来た。その間中、色んな寺々を巡るが、大分色んな寺があった。まだ残っている分だけでも二二に書き留めて置きたいと思ふ。

法起寺

法輪、法起寺に比べ、二二は修学旅行の指定地をいす所ぐ、どこも生誕で一杯だった。殊に金堂のいつも動員だった。二二の寺師三尊は回堂で、寧ろ有るらしい。思やと光る品でかい三つり像、壁をやらぬじ、た格好い、どうもこれも仏像に身見えてるかつた。寺に置いておくのり平自然だ。熱い太陽の影に色んなものが、あるいは、御影像の跡に並べてかくすがいつかぬしい。それかつ、がいどブツクによると、この寺にレリ、つたれた文様は、ギリミア風

が、、奈良の寺に回った。

法華寺

平城宮跡に合、た後、法華寺を訪れた。本堂には、花の尼さんがいた。回堂のナー面観音より、悪文の反古と集めて作ったという提燈像のすが面白かつた。尼さんと二人だけありを幸いに、どうして仏像は全て面面相かちを尋ねてみた。何やの答えてくれたが、本人も山から寺の横手まで、寺の鎌と鎌の話をどうも持ち出して話題を変えた。帰る時、粘土で造った小さな犬を買った。これは尼さん達の手作りの物という事を知っていたが、安産の守りといふ全然知らなかった。道理で、その尼さん、手渡す時に奇妙な顔をしていた。女帝と道鏡が能く成して眺めた庭園だった。これは山より北の、楊梅宮跡に行くと見たが、がっかりだった。小さな神社だけがコンクリート堀に囲まれていた。東手が回って、うっそうとした雑木林の中に入

のブドウ唐草、印度風の華、中国風の神などだそう。多くの人々、天平文化の国際性とか、ヘレニズムの更なる進歩とかいうが、これは現代に当てはめたい。各国の建築様式を取り入れた家を見て、ここで、日本文化の雑種性とか言われて非難されるだらう。寺々、史料として価値があるから、たいてい注目をされるのか、飛鳥から天平にかけての時代は、明治に西洋文明を、戦後にアメリカ文化を争うにつれ取り入れた以上に、中国を模倣したのだ、彼等、天平の自衛隊が、このよう意識を持って、中国文化を受け入れたのか。改米文明がふれり、群の意識が違つた。改米文明がふれり、群の意識が違つた。改米文明がふれり、群の意識が違つた。

で行つて見たが、願にくもの葉をつけ、ボーンに雑草の種を一杯つけ、食用野菜とる様子を撮った。ただ、ただ、ただ。

国立博物館

空いている事を期して、風情、国の博物館に行つた。本堂に無数とあって、私の仏教が並んでいて、しかし、十分回つていたら、もう暗になつた。どれど同じように見えて来た。そして、ついに仏教美術の歴史を全て、初めた本と、びた金庫の塊と、寺々の紙に写った。とうとう、たまりなく、走る、振つて館内を一瞥して、すぐ出てしまふ。後悔はしなかった。一休、自分が悪いのか、並んでいて、仏像をかうスゲ、に入して陣列する事の不自然さを無意識に、たかひに感じました。太陽が、まぶしかつた。と三まで、先生のとき、鹿がいた。

車の町 豊田市

加山遊三

豊田は「車の町」である。日産自動車には「自動車工業都市」とある。言うまでもなく「トヨタ」の支配する町である。

この町は昔、挙母（こも）市と言った。長野県の小諸市とよくまちがえられた。その母の町へ「トヨタ」がやって来たのは昭和十二年のこと。工場は、市街地から遠く離れたところにあったのだが、当時、三河地方の「エ取り引き」の中心地であった。母の町が、生糸市場の大暴落により不景気に陥ると、しだいに挙母の町を、養蚕・製糸の町から「車の町」へと整り変えていったのである。そして戦後、「全国的な経済」の好況を反映してトヨタ自動車も月産三千台から八千台へと発展し、一流企業として同社の名が全国にひろまるにつれ、当市も脚光をあびることになり、自動車工業都

市として性格も明らかになったので、「読みにくい市名を当市にあるトヨタ自動車の町にちなんで豊田市にしようではないかと関係者の間でとり決められ、昭和三十四年一月、市名を豊田市と「コロモがえ」してしまった。（豊田市役所発行「豊田市のすがた」一九六四年）当時、市名変更には反対者も多かった。特に、内藤藩二万石の城下として栄えてきた、いわゆる下町の人たちの「トヨタ」に対する反発は大きかった。しかし、結局、「関係者の間でとり決め」がなされ、押し切られてしまったのである。「挙母（こも）」という名称は、挙母町・挙母神社・挙母まつり・挙母小学校などに若干数、留めることになったが、それらは単に当時の「関係者」の「市民向けサービス」であり、自己満足にすぎなかった。そしてそれ以来ますます「トヨタ」は、豊田市の中心幅をきかせるようになっていった。市長の座も、「トヨタマン

」にうばわれている。県会議員にもひとりと「トヨタマン」がいる。昨年度の参院選では、労組委員長を、会社と労組が一体となって推し、国会へ送り込んだ。（労資協調をうたう労組の悲しきよ）そして、四十四年度、市の決算報告の中で、「愛知トヨタ・自動車会議所用地、トヨタ自工上郷・元町工場の拡張用地を買収あつせんし、まゝ」と堂々と書くまでに「成長」してきている。

この夏、一つの歌が作られた。

トトン豊田で 自慢なものば

くるまだ くるま 車の町だ

ソオジャソオジャン イイジャンカ

どんと積み出せ送り出せ送り出せ

イイジャイイジャン ソオジャンカ

これは、「トヨタ」の「コマース」ソングではない。来年三月の市制二十周年を記念して市民の応募作品をもとにして作った、

豊田音頭と、歌詞の一部である。それき

といた「豊田市指定歌」なのである。豊田を「車の町だ」ということくらい、まあまあよろう。しかし「どんと積み出せ送り出せ」とくると、米や野菜の出荷ならともかく、資本主義経済下でぐくぶく肥っている一独占企業の商品だけに、こうした歌詞を採定した「市」の頭を疑わざるを得ない、と同時に、そういうことまでやりとげることができるようになった「豊田市」の中の「トヨタ」に「こわいもの」を感じる。

この秋、江戸の昔から続いていた「挙母（こも）まつり」が、ふつと消えてしまった。また「トヨタ」が乗り込んできたのだ、そして今度は、まつりを観光事業にした。そして「豊田まつり」となる。「トミ」ス・トヨタコンテストが導入される。商店街の宣伝を兼ねた「装飾自動車パレード」一なんと自動車の町にふさわしいことか、が、はなやかにくりひろげられる。秋まつ

りは、江戸慶長年間からの伝統をもつ八台の山車(だし)と、三河花火の伝統を継ぐ矢作(やはぎ)の河原の花火大会で十分なのにならぶるさとの味バザール「ふるさとの観光ポスター展」全国芸能大会と華が、協賛行事として催される。トヨタが全同から集めてきた勤労青少年に献する、「豊田市のからのプレゼントだ。」「世の中変わったんだから、お祭りも変わるはず。しかし、それがトヨタという怪物によつて外部から破壊的に変えられるとすると、やはり、「トヨタの手」も頭にくる。事実、秋まつりが変わったことに對し、あちこちで不平不満がつぶやかれた。

今、豊田市は十九万七千の人口をかかえている。そのうち十一万くらいが男である。トヨタが全国から若くて安い労働力をかき集めた結果なのだ。昭和三十四年までは女子人口が男子人口をうわまわっていた。そして、その昭和三十四年から、

である。日立市の場合はどういうぐあいかわらぬが、とにかく、一社と企業に「市」を自由に操られ、企業の名を市名に押しつけられていくという、「市民」としては、まったく屈辱的な状態なのである。「自動車工業都市・豊田市」と社会科の教科書で読む上には「カッコーイイ」かも知れぬが、「お米の産地」とか「みかんの本場」とかいったものは、性格を異にするものである。住民の生活とは直接には関係ない。一とは言っても、トヨタ自工で働く人も少なくないが、ぶくぶくふと、た独占企業様だけに、「市民」としてはまったくやりきれないのである。幸か不幸か、トヨタ自工の労組は、「労資協調」を標榜するしに「闘つて」いる。やはり、我々の町を、我々の手に取りかえし、市民による、市民のための政治に変えていくためには、「トヨタ」との「対決」をせまらるであらう。敵は、いかいぞ、敵は、ずるがしこいぞ、しかし、

豊田市は豊田市と名をかえた。偶然とは言えない。今や「豊田市の中」のトヨタではなく「トヨタの中」の豊田市の観が強い。もちろん、人々の生活は、直接「トヨタ」と関係しているわけではない。いや、だからこそ、人々の気づかぬうちに、豊田市をすっぽりおおうてしまつてゐるのだ。朝日新聞の「標的」の欄の言葉を借りれば、「産業抱合体制」といわれる国家もあるが、豊田市を一つの国と見れば、典型的な産業抱合体制である。独占企業の「お名前をちやうだいしている」都市は、豊田市の他に日立市があげられる。バスや電車の駅などに企業の名の付いたところはよくあるだろうが、(豊田市にも、名鉄・トヨタ自動車前がある)、町全体が一つの企業に見込まれて、どんと腰をすえられてしまつてゐる豊田市の場合、自治体としての市の政治が我々とはほど遠いところで行なわれているような気がするというより現実には、うなう

我々の一粒一粒の結集はもつとでかいはずだ。

豊田市は今、「トヨタの町」である。しかし、いつかきつと、この不名誉なニックネームを取り除く時がくるだろう。今はまだその力が結集されていはいけれど、やがて「その時」がくる。日本が、「企業」から解き放たれる、その時よりずっと前に、「トヨタの町」というレッテルは、はがされる。きっと。私も豊田市にゐるが、豊田市を「トヨタ」から解き放つ運動に、できる範囲内で協力するつもりだ。

ふるさととは、決して「心の中」にだけにあるものではない。うばわれている我々のふるさとを、うばいかえせばいいのだ。我々の町を、我々の手に取り返す——我々の日本を、我々の手に取り返す——そうすることによつて、我々は、改めてふるさとと呼べるものをもつことができるのだ。——完全なカタチで。

た結果が出ると、「あり、コンピューターで
もまちがひ……ええんだな」とか「コンプ
ューターではこういってたから、二人の結果
が出るのは不思議だ」そんな言う人が實際
にいる。

かく言う自分も、その裏では全く自信が
ない。世間一般で言われている常識を自分
自身何の批判もなく取り入れたり、いかに
信用した人、有名名人の談や学説をそのまま
し、それをついて聞いたように人にしや
べったり。その他あつち多とこでそのよ
うな誤りをかかす危険にさらされていよう
うを気がする。も、ともそんなことはかり
気にしていただければ何もでさういし、適当
にばかりかしかしいましがいるからこそ、
世の中楽しいそんな思ふのだが。

科学、科学と頭から決めたつて、何が何
でも科学的でなければ気がすまないように
考えををし、實際より本質を理解していな

司 空想的進化論 山

小 中 力

人間は知らずに生物であり、自然に一部
分は従属している。しかし、大や筋のど
と類を同じくするもので決ましている。
つまり人間は他の生物には見られない特殊
性を持つていのである。そして、その特
殊性の故に、人間は人間として存在する
根拠を保持し、他の生物に押し負かされて
いるのである。この特殊性というものは、まさに
非生物的性格、つまり「生物的弱さ」その
ものである。それは、環境への適応における本
能的順応能力の弱さを意味している。もし
人間は頭脳がなければ最も生命力の乏しい生
物として死滅するであろう。しかし、人間
は環境への本能的順応能力が弱いため、ま
さにそのためにより、この欠陥を補うも、を備
えていのである。それは思考という武器

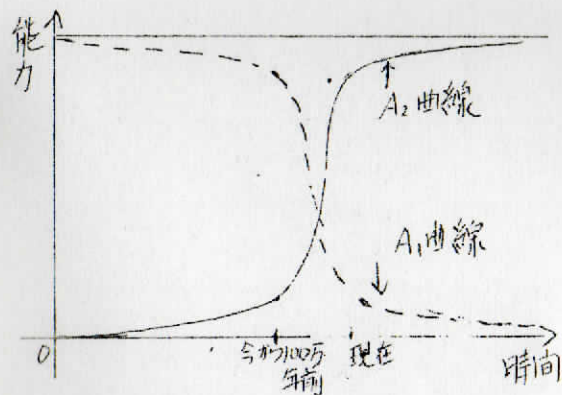
の、これは過去において、長い間迷信が、
何の疑いもなく根強く信じられてきたのと
本質的にはかわりないと言つてよい。この
ような現在の世間的風潮を見るにつけ、そ
の誤りの根深さと、将来に於いての影響を
考えるに及び、思ひがズツとするような感
じをいだくのは僕一人ではあるまい。もち
ろんならわりの誤りをかかす可能性が自分自
身にも存在することを考へて。

の力かけによる、環境への生物学的対応能力
としての、消極的従属以上の能力、つまり
は思考的創造能力である。本能的能力は生
物に固定されたものであるから、一度環境
が変化すれば、自己を変成、つまり変異
による種の変化以外に絶滅を避ける方法が
ない。しかし思考的創造能力の特つ柔軟性
は、ある程度までの環境変化に対応しうる。
おそろしく総ての生物は二つの能力を持
ていのである。そしてもし神が生きとし
生くるものへの愛をもつているなら、こ
の二つの能力の量的和は、各生物において
一定であるだろう。この立場からすると、
進化とは、能力の質的变化、すなわち、思
考・創造能力の増加現象へ本能的順応能
力の減少現象」と定義しようであろう。し
たが、て、生物は、思考的創造能力の増減、
また、は、本能的順応能力の増減として定
量化することが出来る。そこで簡単のため
次の略号を使用する。

本能の順応能力 A_1
 思考的創造能力 A_2
 生物

II.T.

よって生物は次のようになる。つまり、
 $f(A_1) = g(A_2)$ とする。とこ
 ろで A_1 も A_2 も時間の函数であり、そのグラ
 フの概形は左のようになる。と考える。



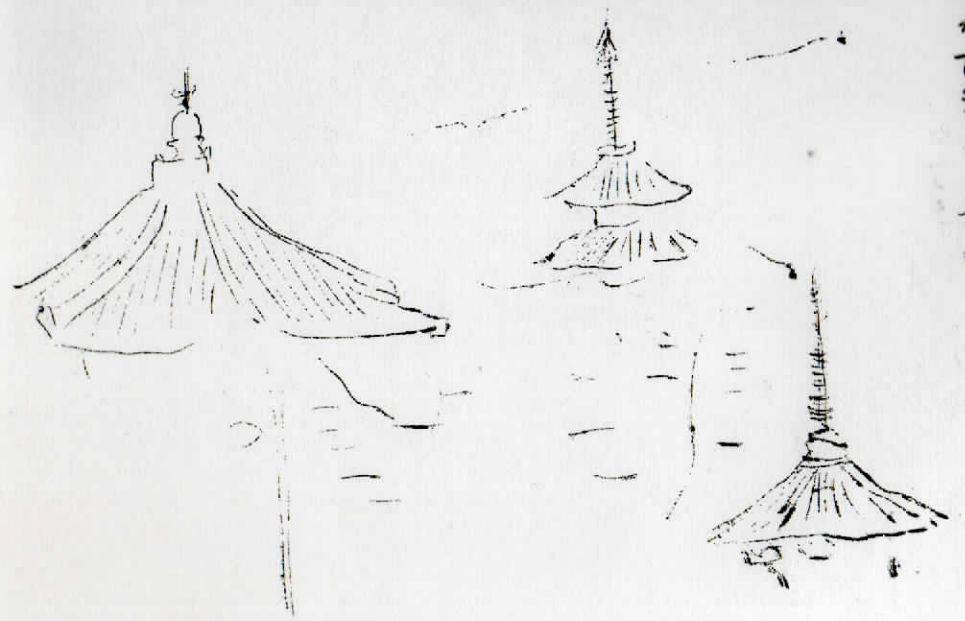
条件により $A_1 + A_2$
 II 定数であるから、
 もし地球が爆発す
 ることなく時間が
 無限に続くとき仮定
 すれば、思考的創
 造能力 (A_2) はあ
 る一定値に限りそ
 く近づき、本能の
 順応能力 (A_1) は
 0 に近づくであろ
 う。したがって進
 化が進行すれば、

上の高等生物は、一層の独立的生命を持つ、
 た機械を同化するであろう。だから機械の、
 生物から独立した自主的活動の生物の意志
 への依存度は、しだいに低くなり、行く。
 したがって、ますます生物の意志というも
 のが、生物それ自身の運命にとって重要な
 ものになるのは当然であろう。現在でさえ、
 コンピューターの人間支配が問題にされて
 いるのに、今後ますます高等機械の出現は
 その自主的活動を強めるであろうから、高
 等機械の生物支配は深刻化する。もし、生
 物の支配が行われず、創造主自身も支配す
 る機械が出現したならば、生物の進化は終
 りをづけ、以後機械の進化が起るであらう。
 そして、機械の生物への意志がなくなり、
 且晩生物は全く絶滅するであらう。生物の
 発生から生物の絶滅までの一連の歴史過程
 は、永遠に過去のものに落ちてしまう。
 我々は人間という生物である。したが、
 てより高等生物の出現の可能性を前にし

当然人間よりも A_2 の大きい生物が出現する。
 そしてついに A_2 のある生物も出現する
 かもしれない。そのよう生物は、おそ
 く機械であらう。しかし、現在あるような
 人間に依存したものでなく、生物からま
 たく独立に思考しうる能力を持ち、ま
 たく独立に生存しうる能力を持つ機械
 であらう。そしてこの機械は、おそらく、
 生物が自ら作り出し、かつそれは生物をま
 たく独立に支配し、おそく、つ
 まりこのよう機械の出現のせは、早くま
 ずも生物の内に依存するが、この機械の行
 動は、まったく生物に對して独立に存す
 る。したがって生物が生物として、地球破
 滅の日まで地球を支配することを敘するな
 らば、この機械と元作のわけはよい、と言え
 るであらう。現在の時定にかりては、たとえ
 ばコンピューターといふことも、コンピュ
 ターの出現し、その意味は、全面的に人
 間の意志に依然している。しかし、人間以

て、地球の支配者たる地位を保つために計
 策を講じなければならぬ。環境への適応
 能力 A_1 、 A_2 のおけ一定であり、かつ A_1 の減少
 は起りえず。つまり A_2 の量的増加は起
 るために、 A_2 の質的上昇を求めざるを得
 ないであらう。そこに教育の最終的、人類
 的意味があり、人間の最後環境に對する
 挑戦手段である。しかし、 A_2 、つまり思考
 的創造能力の固定量而ての質的向上は、 A_1
 の量的増加の前に必ずいつか敗れるであら
 う。その時、我々人類は、我々が動物の
 生命を奪うのと同様の軽い気持ちで高等生物
 に殺されるであらう。我々が動物に殺し
 ているのと同様を残念さで我々は高等生物
 に取りあつかわれるであらう。これが自然
 の法則であり、人間も生物である以上、こ
 の法則の除外者とされるはずはないと断言
 できるのである。現在の我々にとって、
 天文数学の数字の年をへだてた将来のよう

思ひぬかりで、二魂もあふれどしてすまう
 こゝがでまゐりだが、.....



御所ヲ恋フル歌

御井次郎

ド口道ニモマケズ
 世ノ子ニモマケズ
 常ニモ微夜歩行ニモマケズ
 丈夫ナ能ク持チ
 金ハナクとも
 涙シテアセヌ
 イツモフルサトヲ思フナキル
 一年ニコニバ四回ト
 部会トスコツノ実地踏査会ヲシ
 政治的ナコトヲ
 ママリカシシツウニ入レズニ
 ヨクミキキシ
 カワタノシミ
 育チキ名古屋大寺ノ数番面ノ
 キタナオ教室ニ集マリ
 春ニ入學スアレバ
 行リテ登リニ在リテ可被録シ

夏ニ念宿アレバ
 行ッテ台風下戦ヒ
 叔ニ名立大器アレバ
 行ッテテレツツフナークダニスヲシ
 冬ニ志年會アレバ
 行ッテ矢志歌ヲ歌ヒ
 三河ニ出陣マル其院アレバ
 行ッテ英武ニ精通ノ智識ヲ語ラズ
 尾東ニ古戦跡アレバ
 行ッテ昔ヲシノビ
 一ヶ月五ノ田ノ部費ヲ維持シ
 部室ナクとも耐ヘ忍ビ
 会館ノ夜ノ講義ニモオロオロセズ
 世間ニ実情ナキワラズトババレ
 詳細モサレズ
 相手ニモサレズ
 地道ニ
 御究養ヲマシテキル
 コワイウモノが御所デアルタメ
 部員ハ去リ難シトイフ

セックス論

21 某大學生

―題名が扇動的なのではない。思考の主体たるあなたが、扇動的に受けとめるのだ。才当に扇動的なものは、あなた自身の心の中にある。―

心理学者のフロイトは精神分析で有名なが、そのバックボーンをなす根本思想は、パンセクシユアリズムと呼ばれるものであることは多くの人が御存知だと思つ。この思想は、人間の行動の原動力はセックスであるというのだが、またある方面、特に哲學、神學的方面から、目的と手段が混同しているとの有力な反論をなされている。あなたがどちらの考えをどうとすれば満足だが、少なくとも、こういう反論は単にパシリセクシユアリズムを肯定するものでしかなく、特に現象面において、この考えを覆っているという結果にならう。

それは婦人会のエライ様方が、会合のありかたなり態度的にブルジョア的の態度を行なつたという事である。新聞の語調は、三ともあろうかといつた驚きを感じられたが、私にはそうは感じられない。彼女たちは、一般に婦人会々員という自尊心めいた動機によつて、普通人に要求されるべき性的欲望に耐える押えつて、過度に行なつたため、こういった悲劇となつて欲望が具体化されたと考えるべきである。

(1) だが、他面において、セックスの解放なるものが急速に行なわれている。たとえはフリーセックスといつたたぐいである。我々はこういった事態にどのように対処すべきか。これらの現象の特徴の一つに、ほとんどコミニヤルベースで進められていることがあげうるだろう。うがった見方をすれば、まさに独占資本の我々に對するイデオロギー攻撃としての一環を受け持つところ

何故このようなことを言い出したかという、現代における誤ったセックス観の一つである。セックスリタブを打ちくだくためである。およそ男と女の間には、その根原にセックスが横たわっているのだから、いわゆるプラトニックラブなるものは、私に言わせれば、性的異常者のすることである。

これらの事実をタブー視しても、そこから正確な人間把握の態度は出てこない。このように述べると、特に女性方は、私のことを「色キキガイ」とか「好きもの」と輕蔑されるかも知れないが、私の目には、そのようなことをいう人こそ、心の奥ではセックスに悶々としながら、自分のそういった欲望を無理矢理抑さへつけるため、外部にはまさに射的的にセックスに對し攻撃的な行動をとる哀れな人に映る。セックスに對し、否定的かつ攻撃的な態度を取るのはいやよ。事態を直視せよ。

(追記)新聞におもしろい記事が載っていた。

は極めて興味本位である(下市における、ある時期の映画二十本のうち、いわゆるエロ映画と呼ばれる低俗映画が十五本を占めていた。他の三本はやくざ物、二本は戦争物)。下市の文化程度がこれで明らかであろう。これでは正しい方向とはいえない。

フリーセックス論は主として青年層から提唱されているわけであるが、これらは現代社会の慣習に照らせば、決して男女平等につながらず、それ故に解放にはならない。慣習といったものを考えなくとも、それ自体排斥されるべきである。というのは、セックスの本質的な目的、種族保存、を否定して、付随的效果たる快楽の追求のみがその内容であるからである。産児制限は主として政策的根拠に基づくものであり、決して否定すべきものではないが、(1) 私達は、片思いであれ、双思双愛であれ、とにかく恋をする。恋をしたら迷わず結婚

上とか青春時代の思い出といったような、不純な、まさに結婚という大事を前にしては不純となるほかに新しい動機は置放すべきである。そしてセックスの具体的な内容たる生殖行為は、その夫と妻の間で緊密に処理すべきだ。このようにしてはじめて、セックスの解放は成立する。
(後記) もつと経歴に即した話や、具体的な例を上げて肉づけしたかったのだが、救済の関係上、極めてありきたりの話になって、残念に思っている。セックスをもつとよく理解することを目指すものは私と結構うう。
(好奇) 今年度特選の女子が入部した。明洞寺発はかわいらしいお嬢さんであるが、この文を読んで私に對する不当な偏見を抱き、退部するなどということのないよう希望する。

指からこぼれる白い砂のように
幸せのときが過ぎていくから
ロザンの彫刻のように
おぼたにいたかたまたま
死んで石になって受されていたい
息を止めて動かないで
受けいってもこれやすいからうわ
メロデーと歌い方がスゴイいいもんだ
から、私いつも聞きほれちゃう。でもね、この歌詞見てゾッとしなない。私は突然体がグルグルふるえて逃げ出したくなる。最近こんな調子の歌が多いけど、どうしてこんな感覚が持てるの。背景に何があるのかな。これを作った人の顔をトクとながめてみた
いもんだ。

＊

私、大学へ入ってから、こんな具合に、
ねー今はコタツだけどーにほおぐえをつく
か、それとも腕組みしながら、同じことを
ああでもない、こうでもないといねくり回

ある夜のひとりごと

いち・ひめ

今夜、ラジオを聞いているの。こたつに入
って、ほおぐえをつきなながら、歌謡曲や
る。歌を聞いてると何ともいえず幸せな気
持になれるね。世の中バウ色になる。強
なドラムや静かなギターの音、どれもいい
な。日曜日の午前中、暖かい日差しを背に
受けて本を読むのも私の大きな楽しみだ
け。夜十時ごろ、こうしてぼんやりと歌を
聞くのもいい。楽しくなつて立ち上がり
踊り出したけど、もうちょっとカッコヨク
踊りたいな。世の中に歌がある限り、人間
は生きていける。

＊

ところが、こんな歌をやるの、ロザンの
肖像についてうんだけじさ。よく味わってね。
おナイフのような別れの悲しみか
私の背中をなでながら

しながら通じてきたみたいだね。夏休み
は向学心(？)に燃えてヒタスラ読書に没頭し
て。ちよつとオーバーかな。今また、といつても
五日ほど前から、忙しい忙しいとわわわ
いる。にもかかわらず、今日には、て
た十冊の本のうち、完全に読んだのは一冊
だけ。全然読んでないのは五冊。ときどき
あまりにも急激なのにながめてあせるんだ
けど。ところどころ、私ね、郷里へ入って歴
史というものがわからなくなつたの。それ
で夏休みまで歴史とは何だつてずつと考
えた。そして太平洋戦争について勉強した
ら、ごく単純なこと、現在は何百年も昔か
ら続いていることが、突然とわかって
うわーか。た。過去と現在とをどうして
もくっつけて考えられなかったもんね。で
も戦争中に生きていたら、私、歴史とは何
かって必死に考えただろうな。聞けわだつ
みの声にこんなのがあったの。背中がヒン
やりするよ。

昭和7/12 夜更けなつた。いよいよまた

時を思う。一刻一刻が人生への転落の利
弊にある。何時か。今が、その瞬間かも
知れない。大きな目には思えぬが、うしが
かける、かける。わけのわからぬもの
が、猫卷のごとく身をとります。それが私
を未知の世界にふきあげた。何ていう時
だ。人間とは、歴史とは、世界とは、一
体何なのだ。誰が歴史を動かすのだ。激
しい経済にもまわっているような、
のわだちか開こえる。目に見えぬわだち
の音が開こえる。歴史とは何だ、一休庵
をどうしようというのだろうか。

でもさ、生まれてから軍隊が身につい
てしまっている時代だ。私にこのような理
性持てたか。それよりお国のためになん
ていってゐるのではないかな。そんなこと
が、ついては、ワリした。本当のことを
知るために私はもっと勉強をしなけれ
ばなりません。だけど歴史って何かな、や

女性内をつかさと家事と育児を行なうの
が宿命だ。そのかわり、男性が働くとい
う宿命がある。だってさ、宿命とは何ですか。
女性より優位にある男性が宿命だとい
うことがいえますか。や、と女性が人間とし
ての自己を主張し始めたのに、対して「女は
女らしくあれ」というのは、学生の政治活動
に、対して「学生は学生らしく、まず自分の
身分を考慮しろ」というのとよく似て、まんじ
やないかな。でも私も男らしい、女らしい
ということはどんなことか。男を女々しい
といえば、それは彼の価値を下げるものだ
けれど、女を男々しいといえば、それは彼
女の価値を下げるものではない。それは
男尊女卑、男が不平の社会体制に、対し
て、それを破壊しようとするものを、悪とし、
体制を守るうとするものを善とする価値差
準からの非難であるのだ」となだ、いまだ
はいつてますよ。我々はもっと本質は何か
を考へなくちゃいけない。日本みたい

ぱりわからぬや。

※

と、この何年か先、私はどうして
ば、月をたいた。食間は日なたば。こ
夜は机の前でぼんやり眺めを、い
いいんだけ。S氏がいうようにぬか
つけてるかな。その可能性大にあり
協して生きていく方が世の中楽だも
朝食がすめば、夕食のおかずを心配し、自
分のための自分ではなく、子供や夫のため
分になるかもしれない。だんだんバ
なる、かわいそうに思え。でも、それ
破滅は見えてるもんね。第一、一人の
が女に生まれたという理由だけで、家
有規に追われるなんて、あんまりも
ないぢやないですか。家事や育児など
したことはないという男性もいるけど
ね、現状を知らないからだよ。何て
て、それで一日が暮れてしまふ人が多
だからね。でも私も男なんて勝手だよ

だ、ジグザグデモをや、て、甘やかす
インテリを殺して解散なんてことだけ
だめだよ。も、とびくりと地道に考
きや。アメリカみたいに、男性が教
んと作ってもだめ。方向が全然間違
よ。解放とは何か、女性にとって人
つての解放とは何か、本当の敵は何か
と考へな。ま、始まったばかりの
動だから、皆で正しい方向へ、真の解
になる所へ持って中こうよ。男だけが
犠牲によつて成り立つ社会でなく、とも
生き生きとした幸福な生活を送ること
きる社会にしようね。私も人間とは何
社会とは何かをもっと勉強したいな。

※

あ、もう十二時半だ。いつもよりずい
ん遅くは、ちゃった。もう寝よう。おき
なさい。

『名大祭資料編』

第一部 城班

その一、犬山・金山城の謎

☆犬山城

犬山城は一名白帝城ともいう。犬山城下を訪れた江戸期の儒者、荻生徂徠が、犬山城の美しさに感嘆して白帝城と命名したという。徂徠の頭の中には、おそらく白帝城をうたった杜甫の詩が、こびりついてたことであろう。白帝城は中国西南部四川省の東端にある古城であり、今の奉節県の東揚子江の畔に位置している。激流岩壁を洗ひ、その上に古城が儼然とそびえ立っていたことであろう。犬山の街の北辺に城山があり、その頂に白壁の天守が、深々とした樹林に隠れるかのように建っている。急流の麓を木曾川が大きく湾曲している。激流

が山麓を洗うあたりに、不気味な岩がごろごろし、真上に天守が下をにらみつけるようにそびえてゐる城の白壁が陽光に照り返されてまぶしく光る。

犬山城の前身は「木之下城」といい、ちやうど犬山城の南隣の愛宕神社境内に本丸があったらしい。文明元年（一六四九）この地を領めた斯波治部太輔の臣織田遠江守広近が築し、敏広、敏信、信安、信定、と木之下城に居城した。天文六年（一五三九）の時である。しかし、犬山城の織田氏はまさに短命であった。天文十一年（一五四二）、信康は美濃稲葉山の斎藤道三に敗れ、子信清も永祿七年（一五六二）に信長に敗れた。信長は池田信輝を犬山に入封させたが、信輝の摂津尼ヶ崎移封の後、信の末子、信房が入封した。信房は本能寺の変で信長と共に、あえない最後をとげた。その後十一年（一五八三）に信雄が入城し

たこともあったが、天正十八年（一五九〇）に豊臣氏の持城となり、その臣石川備前守

☆木之下城

光吉が犬山を支配することになった。光吉は天守を美濃兼山から移し、石垣、水堀をむはじめ、つくるなど大がかりな工事を開始した。そして現在の犬山城の基を作った。しかし関ヶ原の役で光吉は西軍に組みこまれて敗れた。役後、家康の弟四子松平忠吉が尾張清洲に入城した時、犬山城には、小笠原和泉守吉次が入った。しかし彼はやがて、下総佐倉に転封された。慶長十二年（一六〇七）に家康の弟九子義直が尾張入りした際、犬山に義直の臣、平岩主計頭親吉が居城した。親吉役後は、元和四年（一六二八）、成瀬半人正成が三万五千石をもつて入城した。正成以後九代続き維新に至

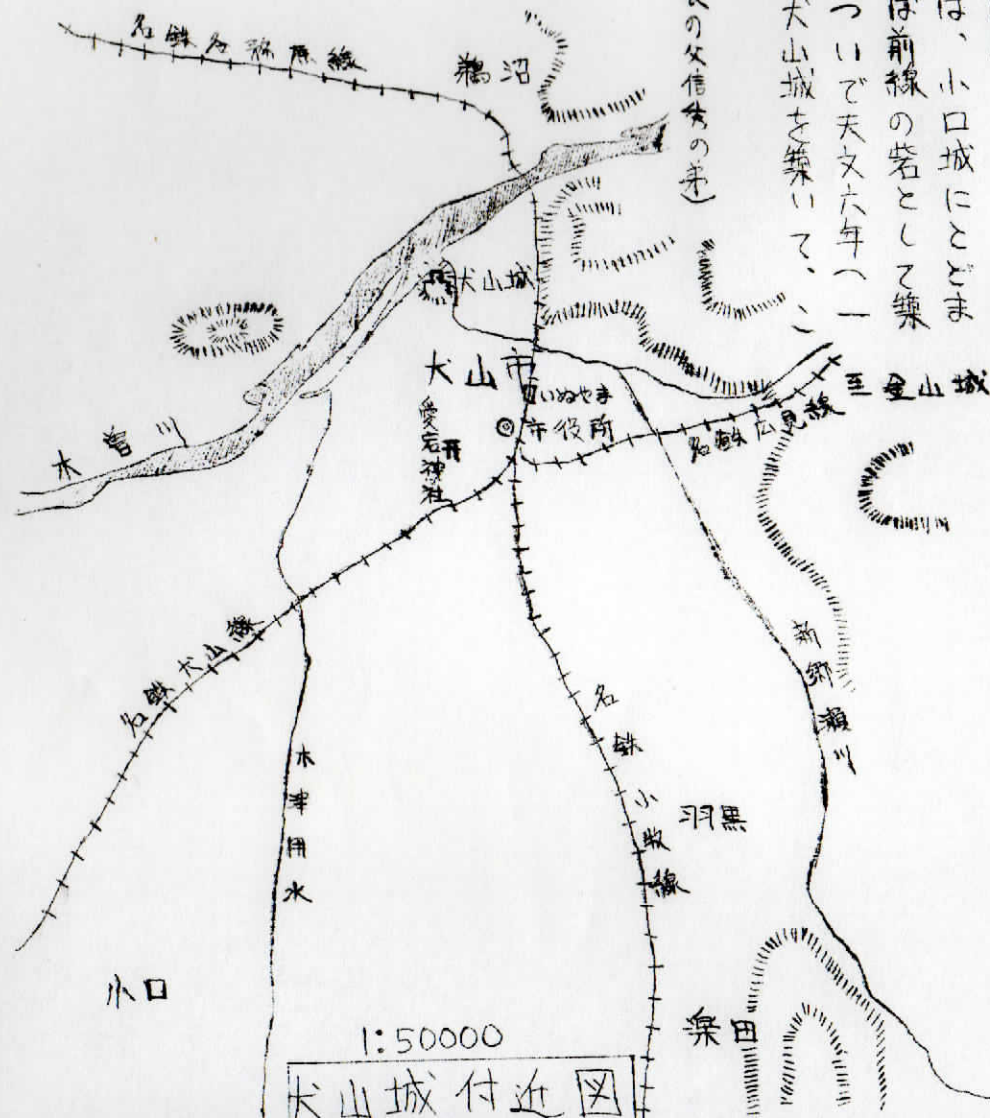


五七の桐の一部

犬山役前前の国道をよこぎった西側に愛宕神社があり、この神社の境内に木之下城があった。愛宕神社内にある高台が本丸跡である。そこから南へのびて、現在の中配電社をふくむ一帯が当時の二の丸で東西四十間、南西北の三方に当時の二重堀があったと思われるものの跡がある。この城は文明元年（一四六九）織田広近が築いたのである。応仁の乱の戦火が地方にも波及するにつれて、守護や土豪等は武力による勢力伸展を図らんとするものが増え、尾張においても美濃よりの侵入が度重なうである。この為広近は、前居城である小口城より、ずっと北、木曾川の近くである、国境の地に城を移し、侵入を防がざるを得なくなった。この城は小口城に比して規模は教分の一の小さなものである。広近以後六代まで居城したと云われているが、中

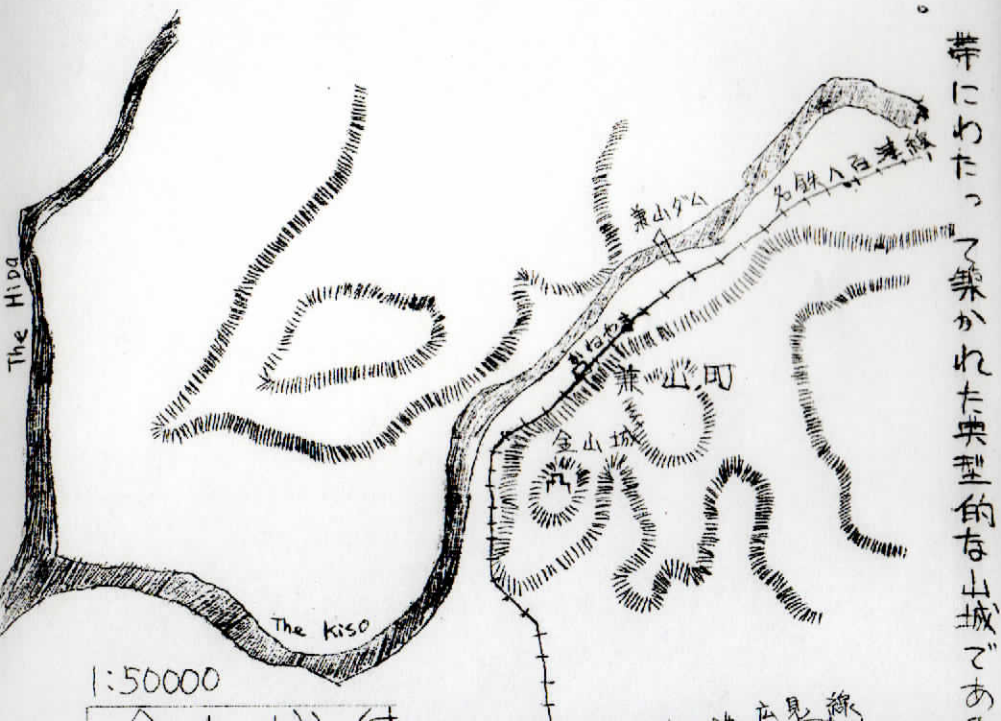
際に居城したかどうかは疑しく、ここへは部下を派遣し、広域らは、小口城にとどまっていたらしい。いねば前線の砦として築かれたと考えられる。ついで天文六年（一五三七）現在の位置に犬山城を築いて、この城を築城とした。

③ 犬代は信康（信長の父信玄の弟）



☆ 犬山城

犬山から20kmほど上流の岐阜県可児郡兼山町の古城山に城跡がある。この古城山に築城したのが斎藤大納言正義である。正義は京都の園白近衛植家の庶子といわれ、初め僧であったが生来の武術好きの為に横川恵心院を飛び出して縁故をたよめて、美濃の斎藤利政の許へやって来た。利政は、後の道三である。その母と植家の母（正義の母）とは姉妹関係にあつたといわれている。利政の養子となつた正義は天文元年に飛騨の江馬常陸守と郡上で戦つて功名をあげ、同六年に築城を始めたが、この年わずか二十三才であつた。天文七年春、新城に入り中井戸を金山と改め城を鳥峰城と呼んだ。後に、ここは信長の領するところとなり、家臣の森可成を入れた。尾張へ帰った。この可成は有名な森蘭丸の父である。そして、慶長年間に至り、家康により石川光吉（犬山城主）に与えられた。金山城は古城山一



九、解体したとしても、六十二年経ている

九、解体したとしても、六十二年経ている。ために、移築解体に際して、二度番付を附ける必要がないかもしれない同一技術者が新築、解体両方を担当したとも解釈することも可能性は甚だ薄いことになる。又、解体の際の番付を直接に木材に印さないで、木片に書いて貼付け、後にとり去ったとも考えられる。しかし、それを裏づける根拠は見い出されてない。

①移建であるならば、釘が少くとも二回以上打つてある筈である。新築の際と、移

① 移建であるならば、釘が少くとも二回以上打つてある筈である。新築の際と、移建の際とであるから、それらの釘穴がのこっていなければならぬ。しかし実際には当初に打つたと見られる旧釘穴は使用材には見出されていない。この事実も移建でないことを示している。

② 移築であるならば、移建工事の際に、枡（まち）や枲穴などに、何等かの根跡をのこす筈である。無理をしておさめたり、補強したりすることがありうるから、さうく

いかなる解決し、かつ、いかなる説を出してゐるのであるうか。

もうすこし、彼の口を倦り、等を延めよう。

“犬山の城兼山より綴すと云事は天守並に
丸の弓矢櫓同上り口右の櫓ニヶ所せ内田門
は兼山の追手門にて”とあり、さらに、
“犬山追手南内内と判町の西南角の屋敷
古へ兼山より引きたり、兼山城主の一走
門のよく（中略）又東南角の屋敷門は兼山

二走のよし”
とあって、金山城移築は天守の外に櫓せ
に及んでゐることを伝えている。これら
櫓、門は現在しないため、それを確認す
ことはできないが、小牧・長久手合戦の
、大名城は攻撃を受けて損傷したと考え
れてゐるから、諸櫓、諸門の整備を金山
古材で行なわれたことは当然としてよか

う。慶長の金山越は、諸櫓や諸門におよ
でいるから、城内主要の建造物である天

ももちろん新建されたものと推測されることはありうるであろう。視聽障壁は江戸末期に記述されているから、このような推測から、天守櫓築を該記されることは土佐藩ないものである。金山の人である実村佐二門義倫が享和十四年（一七九二）に記した金山記大成は、正事記（資料参）から後の成立ではあるが、金における所伝を則記のように「尾州大山ニ引取ルベキ若砥却セシメ古木材ヲ削下シ大山ニ引取、本日ニ造立セシメ」と書いている事が注意されるのである。ここには櫓築のことだけが述べられ、大山城の天守がそれであるとは明記されていない。このことは、金山城の大山への櫓築の事情、真相をおぼろげながらも、むしろ明確にうまく伝えているものと考えなければならぬ。

したがって今次の解体修理工事の結果、解明されたことは、世に伝えられてきた金山城櫓築というのは、天守以外の櫓、門

の成瀬正成によって、附け加えられ、この際それにともなつて、大屋根が、改修され、欄干が周囲にめぐらされることになった。

ではこれに対する肯定説、からの反論はどうであろうか？

金山越肯定説

●肯定の根拠、その一

金山城と大山城との天守の比較である。

これについては、「大山、金山越の謎」の資料のところを参照してください。

●肯定の根拠、その二

向願の金山城天守台、それと大山城天守との比較から、一、根拠が得られたが、次には、年代考証やその他の史実決定の重要なきめ手となるのが、瓦である。ここでは、大山城天守の瓦と金山城天守の瓦をみてみ

などの建築物についてであつて、天守は櫓築でもなく、又、古材を転用再用されたものでもない事実である。従来、移建説が一般にも専門学者の間にも、当然として信じられてきただけに、この解明は大山城の歴史の上にまったく重要な新知見をもたらしたものだといえよう。

以上が城戸氏の見解である。

では、大山城天守の創建の事実は、彼の説次の様になる。

一、下層の主体一、二階の大入母屋屋根の築った部分には、現在地において天文六年（一五三七）織田信康によつて新築されたものである。

一、上層の望楼部、三、四階は、金山城を移し、他の城櫓、城門を整備した時に、それにともなつて、増築された。慶長四年（一五九二）石川光吉の時代から、受けついで、同六年の小笠原吉次の時代になる。

一、南北面の唐破風は元和六年頃（一六二

よう。

金山城天守の場合、その創建は旧来の説天文六年まではとても通り得ず、まず天文五年（一五七二）頃とみられているので、当初は一般的な三ツ巴紋か又は森家の家紋「舞鶴」を文様に使っていたと見られる。破損その他の補修の爲か、天守付近から掘られる瓦は三ツ巴紋のみであるが、多量につまみ、降つて、秀吉が関白に就けられた時、彼は金山城主森仙千代（森の末弟）に豊臣、羽柴の両姓を与える。同時に「五三の桐」の紋章の使用許可をえた。したがって、後の補修に当つて夫瓦に、秀吉下賜の権威ある「五三の桐紋」を使ったであろうことは、明らかである。一方大山城主で桐紋を家紋としていた者無く、石川光吉は、「何鶴」小笠原吉次「三階菱」、平岩親吉は「文に弓の月」成瀬家は「カタバミ」であつた。しかし注目すべきことは、明治二十四年の濃尾

前までは、夫寺二層入母屋根に桐入軒瓦がわがかに残っているのを確認していた篤志家が有ったことである。残念なことにこの瓦は震災で破損して行方不明になってしまっていた。もしこれが発見されれば、桐入瓦は金山城より運ばれて使われたものと考えられる以外になく、天守移築説に一つの有力な傍証を与えるものと期待されていた。

■肯定の根拠、その三

手伝普請によって出来た名古屋城、伏見城などの大規模城郭や、平和な安定した時代に出来た建造物は相当遠隔地からも良質な用材が運ばれて使用された。しかし一般の中小大名によって築かれた戦乱時の城郭においては、経費力や動員力が小さく、国内的にも他領より買いためたり、領内でも遠隔地から取り寄せることは困難なので、城の近辺に在る材木を使っていたようである。そのような観点から小規模な大山天守

守を見ると、松が大部分で、土台に栗、の他松、杉、杉などが使われている。これに対して大山付近の樹種は松がほとんどで、松、杉などはほとんどない。ではもう、こし上流から材木を流したのであるのか。この考えは可能性がうすい。なぜならは美濃を越越して造る大山城へのいかたに運材を道三が許さないのである。

次に金山城では、城地の古城山に松、が強く生え、栗もある。したがって金山守造営に当たっては、手近にあるこれらの材木を使ったと思われる。

■肯定説の根拠、その四

先に述べたように、否定の根拠として「番付」がある。番付というのは、柱の桐入や檜の桐入などに記されている、「イ」とか「ロミ」などの符号であり、建物を逐に正確に立てるにはなくてはならないものである。しかし大工の個人的な覚えすきず、通岸人目にふれることはない。

■肯定説の結論

天正五年ごろ金山城において、一層二の天守が造営され、慶長五、六年頃、石光寺が小笠原吉次によって大山城に運ばれた。折から三光寺山から現在地へ白山山へ移す間でもあつた。たわけに金山天守移築際、同天守に土台が使われていなかった。土台使用に改め、穴蔵部分を減少に、以外ほぼほとんど変更することなく行ない、同時に新材で以って、三、四階の増築をした。

『大山、金山越の謎』 伊吹悠行者

参考資料

- 。国宝大山城（城戸）
- 。新編大山城史（横山）
- 。郷土誌本大山（大山市教育委員会）
- 。日本ラインの姿

定説では、創建の時に打った番付では移建が出来ないので、移建の時に二度目の番付を打たねばならないと主張している。しかし肯定説では云う。
たしかにこのようも考え方もあろうが次の事実は否定するわけには行かない。それは、下層の主屋と、慶長五、六年頃に建築されたことがほぼ、立証されている望楼部との双方に同じ「時番番付」が使われていることである。この事実は、下層と上層の双方が同一棟梁によって建てられたか、もしくは同一系統の棟梁によって、たことを証明している。創建の時と同じ「時番番付」を使う棟梁が主な規模構造を変更することなく移建を行なう場合は、旧番付に重複して二度も打つ必要は全く無く、もし打てばいたずらに混乱を招くにすぎない。旧番付をそのまま利用して移建を行ない、さらに増築の望楼部にも同じ自分の常用している時番番付を付うこととなる。

おことわり

名大祭資料、城班その二、「岡崎城編」は、編集委員会の都合により、次回（オ9号）にまわらせていただきます。

オ9号のオ編集委

その三、愛知県内の諸城

吉田城（平城）

永正二年（一五〇五）牧野古白（成時）の創築、今橋城と呼んだ。

翌年、田原城主戸田堯光に奪われる。古白戦死、二男戸田金七郎居城す。

大永初年、古白の子伝藏信成兄弟、城を回復するが松平清康にうばわれる。

天文六年、戸田金七郎、松平氏の守將を追って再びこれを領有。

天文十五年（一五四六）、今川義元領有、永禄七年の桶狭間の後、徳川家康が、今

し、今川氏のため討ち死にした。その後、

徳川氏が領し、天正18、池田輝正の臣が城代になり、輝正移封後、小大名が居城す。

幕末に家老として渡辺幸山がいた。

長篠城（平城）

永正五年今川氏親の部將菅沼元成が築く。元龜2年の戦いで武田信玄の手に帰したが、信玄没するや家康がこれを攻め取った。天正3年（一五七五）武田勝頼は一万五千の大軍をひきつけ甲府を出発した。これがあの長篠城の戦いである。この戦いの後廃城となり、新城へ移った。



長篠城図

川氏から独立するに及び、酒井忠次を城とする。

天正十八年（一五九〇）家康の関東移転ともいって、池田輝正が城主へ15万7千石となる。池田輝正は総面積20000m²の郭を計画したが、在城10年で姫路に移り、その後は358万石の小大名ばかりだった。ので石垣が築かれたのみで完成に至らなかった。

もし輝正が移封されなければ、豊橋に路城ができたが、ついていたかもしれない。

田原城（平城）

文明10年（一四七八）戸田宗光により築される。戸田氏の勢力は遠美半島一田と田城、知多半島南側におよび、三河湾の上も支配して五代55年にわたって栄えたが、五代戸田堯光が今川氏に吉田城を攻められたのを根にもって竹千代強奪事件を起

宇利城（山城）

一五二六年今川氏親が死ぬと、松平清康は吉田城・田原城・田峯・野田等を攻め、従えていったが宇利城主熊谷備中守は従わなかった。ので、一五二九年松平勢三千にすり攻めほろぼされた。

龜山城（平山城）

興平貞俊が築く、貞久、貞昌、貞勝、貞能、信昌と代々居城したが、信昌がこの城を去って以来廢城となった。信昌は長篠城の戦の当時の長篠城主である。

山石津城（山城）

この城は松平氏雄飛のときになった城である。松平信光が築城

仁連木城（平城）

・野田城(山城)

初代菅沼定則、二代菅沼定村、三代菅沼定盛、三代菅沼定盛の時、野田の戦いがあ
り、武田信玄がこの戦いの最中、おぼろし
い笛の音にふかれて鉄砲でうたれて死んだ
という説がある。

・刈谷城(平山城)

天文十二年、水野忠正が築城。現在、こ
こは亀城公園となっている。

・馬海城

安原備中守宗範が応永元年に築城。桶狭
間の戦いのとき、織田・今川の攻防の要所
となる。

・大高城(平城)

この地方の豪族、花井備中守が永正元年

・小牧山城

永禄六年(一五六三)、織田信長によって
築城。翌年、信長は船葉山城(岐阜城、斎
藤龍興)を攻略した。

・那古屋城(平城)

大永年間に、駿河の今川氏親が米子氏豊
に築かせたものであるが、弘治三年以後廢
城となっていた。しかし、この地は大名古
屋城として復活する。信長はこの那古屋城
で誕生した。

・古妻城(平城)

天文十一年、織田信秀が築城。現在の東
別院境内がその城址だといわれている。

に築く。桶狭間の戦いのときは、織田、今
川の勢力争いの境線線上にあった。

・安祥城(平山城)

岡崎以前の龍平氏の居城。青康の代に岡
崎に移ってから、隣国織田氏への前線
基地として、この城をめぐり、激しい攻
防戦が繰り返された。天文9年には織田方に
奪われたが、同18年に至って回復した。

・青須城(平城)

応永年間、斯波義重が築城し、臣織田氏
を守護代とした。織田信長はここを出発点
として、天下統一にのりだした。

又、織田信雄・豊臣秀次、福島正則、
松平忠吉、徳川義直ら著名武将が厂代城主
となり、全口的に有名な城であった。青須
越により、一六一六年廢城となった。

天文十七年、織田信秀が駿河の大守今川
義元に対するため築城した。

・守山城(平山城)

織田信秀が東方(今川氏)への固めとし
て築城。

・小田井城(平城)

守護代織田敏定が築城。

「世説書」

↓
おもへ

(石普請)

「いしむね城こしらへもいらぬもの
(安土) (小)」

あつちお田原見るにつけても

名大祭資料 民衆班

一、一揆研究の意義

我々が歴史を見る場合常に高校までの教科書や世間一般の歴史において、とかく支配階級の歴史や、いわゆる歴史上のヒーローたちに視点が集まり、社会を、歴史を真にささえてきた民衆の、農民の姿を忘れがちである。実際、その時代時代に生きた民衆の姿を的確にとらえることは、資料の面から言っても非常にむづかしい。しかし、我々は、その民衆の、農民の姿を知ってこそ、真に歴史を理解することができ、また、郷土に生きる人々の、過去、現在及び未来への方向をも知ることができると思う。

今、我々は、その農民の姿を知る一つの手がかりとして、ここに天保七年三河国加茂郡一揆以下加茂一揆をとり上げた。

一揆の発生の原因はいろいろある。しかし、一揆発生の根本は、当時の社会的、経

済的、階級的矛盾が、ある経済的、社会的混乱により、民衆の運動となり、峰起となり歴史の表面に出て来たことにある。その反発的、時には反体制的、そこまで結論するのは容易でないが、広い意味で運動の中に、我々は、当時の農民の生活の質一々を、封建社会における農村社会への圧力に対する怒りの声を感ずることが出来る。それは即ち、社会をささえている者たち一つ一つであるのだ。江戸時代においては、農民は資料に見られる如く、農民の統制はきつしく、特に一揆に對しては懲罰をもつて、一揆の発生においては、首謀者はもとより死刑、親族、参加した村全体にまで罪が及んだといわれる。そんな中でこそ、一揆に農民の最大の抵抗として、一揆を組織し人々の並々ならぬ決意と生命が感じられるのであり、一揆の発生及びその資料は、数少ない近世社会の農民の姿を知るものとして貴重なのである。

二、加茂一揆発生の背景

天保七年三河国加茂郡一揆は、江戸時代三河、尾張国で起こった一揆として最大のものであり、処分一万人以上に及んだことは、資料「三河騒擾記」の示すごとくである。この一揆に關しては研究者も数編あり、特に「鶴の嶺」が有名であるが、筆者が神官という特殊派の人聞であり、一揆を批判的目で見ているところもあり、また何分量も多いので、ここでは一応資料としてあげた「三河騒擾記」を基礎にして語を進めていくことを御了解願いたい。

近世封建社会成立の過程と、幕藩体制初期の農村社会の統制と、農民の生活について、巻ずいぶんとそれらについての資料も出ていり、専門の分野においては、とても我々の手の届く限りではないので、省略するが、一応高校程度の内容の知識の範囲内で処理することにする。

加茂一揆の起った江戸後期には、初期と比べ、地域差もあるが、農村の概相はやはり変化している。元禄以降農村における階級分化が起る一方、農村における商品作物栽培の奨励から商品経済の農村への流入、農民の生活の変化、農村内の階級分化がだんだんと起つてきている。農民が銭をもつて暮し、また農民の中には土地を失い、水呑となる者の数が増大していった。この農村における階級分化と農村の商品経済化が各地の農民一揆の大きな背景となっている。次に三河国加茂郡の地勢および当時の周囲の状況から一揆の直接の原因をさぐってみよう。(以下「受知屋の歴史」山川出版より)「因幡」足助間の馬かせぎ道路のちやうど中間あたり、また川舟の終着点でもあり、た九久平村の近くでは、薪が住民の現金収入の一つの方途になっていた。天保四年(一八三三)、九久平村の間屋が由し合わせて、薪の買入れ値を引き下げようと、これ

打ちこわしをはかるといふ事件が起つた。
当時、足助町の商人たちが近隣の農民に金を貸しつけ、田畑を質にとる動きはかなり進んでいだし、一方、小前の者が困窮して要求を出していく傾向も山間部一帯に見られたから、丸久平村の村民が薪問屋のような事件は、ほかにあつたに違いない。
尾張地方を中心に、東本願寺門徒の騒ぎがあつたのもこの時期である。文政六年（一八二五）、名古屋と渡町に、尾三両国を以てめとする、諸国門徒の多額な寄進によつて東本願寺題所が再建、竣工した。ところが同じこの日、京都東本願寺の本堂が火災で焼失し、諸国の門徒から材木、金銀の奉捨が大量に集められることになった。白書願寺、木曾山までもが材主にし、山といふ名古屋のある作者のり柳は、この間の事情をうがったものだが、大量の寄進財物の会計をおぐる疑惑を露端として、天保七年（一八三六）

願寺家司およびその一党と見される僧侶村寺に訴訟を起し、宗法論までに発展した。加茂郡地方にも東本願寺門徒は多く、村の名望家層がこうした事柄の当事者になるのが違ひなかつたから、前西郷の領内に村する不満は、爆発の火としてくすぶつていた。
天保七年の八月十三日、尾張、三河地方を襲った台風がその起爆剤になった。大の冷えこみで高値気味だった米価がこれ急騰した。九月の中旬になると、丸久平周辺の農民の間に、三々五々より集つてとを呼ぶ動きが出てきた。かなりの年次連なりながら家をついでいらないものが、の中心になったようである。不河内村の歳という世間を知つた岩、松平村の柳、近藤と云ふ村役人クラスは連中までがやがてこの動きにまきこまれ、二十日の石龜峠に一党の集會がもたれた。この

着念誠の翌日、分會すべき村々の名簿を用意した集會がもたれ、集會を執んだ村の役人宅、酒屋、米屋への集會要求と打ちこわしとがただちに開始された。
このようにして加茂一揆が開始されたのである。以下の経過は、資料としてあげた「三河縣撰記」により読み取つていただきたい。

三 加茂郡一揆が示すもの

資料を読んでいき、要点及び問題点を抜き出し、考えてみたい。

(1) 諸物価高騰による民（農民）の困窮により、当時の加茂郡地方における貨幣経済の浸透。この傾向は、地域性もあつたが、やはり全国的なものであろう。

(2) 一揆を組織した部分には、農村下層階級とみてよい。一揆を組織するにあつては、その中心として統率力のある者、名望のあるものが選ばれ、中には上層農民も入つてきた。

一揆を組織するにあたり、各村に呼ばれ、各村一揆となつて参加したが、各村の連がりの面々、尾張藩と比較し、升るおもしろい。

組屋敷が意図したところは、強訴による物価の引き下げであるが、下河内村で蔵が換けた後も、打ちこわしとして大々く広がつていくのである。そこに現れる一揆に参加した人々の意図意識、(3)と重複するが、一揆衆の出した要求にも、当時の農民の生活の変化がうかがえる。

(4) 一揆衆が足助に向かつた点については、足助は地方の商業の中心であり、前章で農民との対立を述べたから特に問題はない、さうである。

一揆鎮圧に對する諸藩の行動を見れば支配者の反秩序的行動に對する処置がわかる。これは過去、現在を通じて通のことであるから。(ミエミエ)

最後に一揆衆が拳女に向かったことをどう評価するかについて。解説書には、反領主的行動と評価されたものも見うけられるが、ここには、支配者と被支配者のイデオロギー的問題、城と民衆とのつばり争も広く考ねばならず、一概には断定しがたい。このことは一揆全体の思想性を包括するものとして、また当時の農民の意識全体を規定してしまっているので（やや言い方がおかしいが、とにかく）こゝで生半可な結論を出すのは避ける。この問題に関しては、歴史的検証と、諸氏の討論及び判断の結果を待つのみである。

四 一揆のその後

資料「三河騒擾記」には、一揆衆が鎮圧されたところと、処分の結果が記載されているが、果たして、一揆が終った後、どのようなになったのか、米価・物価はどうなったのか、下河内村で交された覚え書は果たして実行されたのであろうか。人々の生活はどうか。

五、結ぶ

以上、加茂一揆に関して、我々が名大寮において行なった調査及び討論の概略を述べた。これは、もちろん、一揆の研究資料としては、全く初歩的なものと言つてよいであろう。事実、発表に際して、松平

活はどうだったのか。それらの点については、はっきりしたことはあかっている。飢饉の影響もあり、米価は下がらなかったと書いた本があったように記憶しているが、調査不足であつたか、確かな記憶がないのは誠に申し訳ない。しかし、加茂一揆が残したものと、加茂一揆後の一帯の情勢についてここに少し記述がある。

「加茂一揆を生み出した情勢は、もっと広い地域にあった。岡崎藩兵が東海道筋を合む広範な地域に「一揆起こる」の風説に当惑したのは、決して誤報だけではなかつた。たとえば、十月二十一日には、美濃境いの山村である小原村を中心とした一帯で徳党呼びかけの車廻状がまわつた。車廻状とは、発起人の名をかくすため、同形に署名、車廻した差出人による回覧状である。その内容は、飯沼屋、頼母子、紺屋などの松いを延期させ、借金をとくせい（徳政）、すなわち破棄させるための共同行動を呼びかけるも

として一度きり行ったにすぎません。資料にしても、その信頼度は別にしても、事実の概略を知ることができるとは、その中から連綿一揆を組織し、それに参加した人々の考え方や思想性を導き出すことは不可能です。

前に述べた、当時の農民の姿を知る年がかりとしての一揆という事件という見方で、我々は読み合わせと討論を重ねました。そこで問題となった点について、いくつか、要点となるものを三年に紹介しました。我々の討論も時間的制約から十分でなく、また、我々の討論の結果から加茂一揆の性格や思想性を規定してしまふことは、危険であり、まさにナンセンスと言わねばならないでしょう。名大寮が終わって以後、いまだに加茂一揆に對しては、我々の中に大きな疑問と問題点を残したままなのです。名大寮において、加茂一揆の存在と事実

察を発表し、皆さんに読んでいただいたことにより、我々の少くとも名大寮においての発表者としての使命は終りました。この発表を見て、加茂一揆の事件の中に何を見い出すか、どう解釈するか等は皆さん一人一人の理解と判断の中にあります。この名大寮資料等の発表を機会に、発表を行なった人たちも含めて、再度考えを深めていただきたい。今後、歴史に關する新しい資料の出現と、この加茂一揆の発表が、それを見て下さった人達に、何らかの糧となることを祈って……。

余白コーナー

平次郎地蔵

岐阜県に近い木曽の山奥に開田村という小さな村があります。村はずれの松林の前に水ツンと一つのみすぼらしい地蔵様が立

た。そして彼はやってきた殿様の家来に、これは山火事です。私は仕事を休んでいて確かに山火事を見ました」といいました。しかし、家来は信用しないので、彼はひのきの枝を二本こすりあわせると、それは燃え始めました。そして「こんなには燃えやすいひのきの山です。山火事に違ひありません」といいました。しかし、家来が山の焼け跡を調べてみると、あのやのこざりで切った木の根が焼けずに残っていた。平次郎はさうし首にされました。村の人達は彼をたたえて、子供達が大きくなった。村人のために死んだ平次郎のことを思い出すように、こゝそり地蔵さんを作りました。この平次郎地蔵がそうです。

この山はその後、皇室の御料林になりました。ところが殿様の時代に村で持っている近頃の山までが一掃に御料林にされて、父兄の墓は前よりも固るようになりまし

っているのですが、村の人はいつもこの地蔵さんにきれいな花を一杯供えています。

昔、この辺の山は全部村のもので、村の人は誰でも山の木を切つてよいことになっていました。家を建てたり、馬小屋を作つたり、橋を作つたりするためには、どうしても山の木が必要でした。ところが料のくが知らない間に、この辺の山は名古屋の殿様のものになってしまいました。今まで、自分達のものだとばかり思っていた山は、入ることとができないだけであつた。ひのきツ首一匹ということになりました。しかも村の人は山の木がなければ生きて行けないので、山に忍び込んで木を切つてきました。ところが、そのうち殿様の家来が山を調べにやってくるようになったので、村人は皆まっ青になりました。このとき、平次郎というお百姓が私が申しひらぎをしましう」といつて山に火をつけました。火はたちまちひのきの林をなめつくしまし

の平次郎地蔵です。それで明治になってからもこの地方からはたくさんの平次郎が出ました。村の山をかえせ、ひのきを村人のために使わせてくれとせんで、たくさん平次郎がこの地蔵さんが立っている山を東京へ運びました。そして皆重い罰を受けたのです。

これから平次郎が村の若い者の間からたくさん出ることでしょう。このひのきはまだ村のものになっていないのです。それから平次郎はこの地蔵さんをつくりに来た頭だったそうです。

石母田正著

歴史と民族の発見

こどもの声第十七号

名古屋郷土研究会

会則

第一条

本会は名古屋大学郷土研究会と称し、本部を部長宅に置く。

第二条

本会は郷土の歴史、文化、民俗、地理等を体験的に研究し、会員相互の人間性向上を目的とする。

第三条

本会は、本会の目的達成のため、次の活動を行う。

一、本会の目的にそつたテーマを決定し、次の様に研究を行う。

資料研究、現地研究、資料の整理と発行、その他

二、春・夏の合宿

三、機関誌の発行

四、他校並びに民間の団体との意見交換

五、その他必要と認められる活動

第四条

本会は左記の会員をもって組織する。会員とは、本学の学生で本

第五条

会の目的達成に賛同する者。

特別会員 一、本学を卒業し、在学中会員であった者、並びに、本会の目的達成に賛同する者で総会で認められた者。

本会は次の役員を置く

一、顧問 本学の教職員で本会の目的達成に助言を与える者。

二、部長 本会を総括し、本会を代表する。

三、副部長 部長を補佐し、部長に事ある時はこれを代行する。

四、歩外 本会を代表して歩外事務を取扱う。

一、会計 本会の会計一般を取扱い、名古屋大学一週間以内に中間報告、十日三十日付の決算報告を義務とする。

会員より会計報告を求められた場合も同様に報告の義務を負う。

一、書記 本会の議事及び活動に附帯する事務一般を記録する。

一、記録 研究調査の記録を取扱う。写真、拓本等も行い、管理する。

編集

機関紙、資料集等も発行する編集委員会、最高委員任者として、委員会の事務も遂行する。委員は総会によって互選される。

六条

役員は毎年十月中に会員中から選出する。選出方法は総会において、無記名投票により決する。但し、顧問は総会の推薦の受託により、決定とする。

七条

役員の任期は原則として十二月一日より翌年の十月三十一日までとする。

八条

在期中に役員の不信任が表明され、総会において、三分の二の賛同を得た場合は不信任が成立する。この場合、その役員は、その職について、オ六条に基づいて選出する。

九条

役員が辞意を表明し、総会で承認された場合はオ六条に基づいて改選する。

十條

総会は本会の最高の議決機関である。
定例総会は（毎週土曜日の）例会をもってこれにあてゐる。

十一條

臨時総会は次の場合に開かれる。
一、全会員の三分の一の要請があった場合
二、役員過半数が必要と認めた場合

一、部長が必要と認めた場合

十二條

総会の成立は、会員の過半数の出席をもつてする。但し、会員が正当なる理由で欠席する場合は委任状をもつて出席とする。

十三條

総会では過半数をもって議決するが、オ八条、オ十八條、オ十九條は除外する。

十四條

本会の経費は、会員の会費及びその他の収入金によって充てゐる。

十五條

会員は、入会金百円、一月につき五十円の会費を支払う義務を負う。会員は必ずその月末までに会計に支払わねばならない。

十六條

特別会費を徴収する場合は総会で承認されなければならない。

十七條

次の者は会員の資格を失う。
一、本会の会費にあるまいき行動態度をとつた者。
二、正当な理由なくして三月以上会費を滞納した者。
三、無届で一月以上欠席した者。
以上の項に該当した者は総会により三分の二以上の賛成で除名

オ七八年

本会の会則改正には会員の三分の二以上の賛成を必要とする。

名古屋大学郷土研究会会員名簿

1970年12月

大学院生

杉浦博一

工学部応用化学科

四日市高校

四日市市富田原町 8012(〒512)

四日市(651)-0149

経済学部経済学科

東海高校

名古屋市港丘油屋町 30140(〒455)

16511-08155

西川 義永

4年生

伊藤 明德

陸女高校

文学部中国哲学科
春日井市下市場町 548(〒486)

西川 洋

名古屋西高

教育学部教育心理学科
名古屋市中種近端南町藤森作田131(〒465) (771)-7246

井村 正博

四日市高校

工学部応用化学科
四日市市東富田町 28620(〒512)

寺本 忠司

向陽高校

理学部化学科
名古屋市中昭和区白雀町 60131(〒466) (5711)-0834

塚本 正巳

熱田高校

農学部応用化学科
名古屋市中北区名城町 2019(〒462)

杉浦 秀敏

刈谷高校

農学部農芸化学科
碧南市高染町高取小林 68(〒444-13) 0562(153)2408

3年生

比田全

法学部法律学科 金沢大付属高
稲来市奥田町北内中 4957020(〒492)

松浦孝和

法学部法律学科 刈谷高
豊千元城町2048(〒471)

平野善敏

経済学部経済学科 刈谷高
刈谷市垣江東中根 45011(〒448) 05661021-5936

高木義明

経済学部経済学科 大垣西高
岐阜県不破郡関加原町 302508(〒50315)

伴金美

経済学部経済学科 刈谷高
知多郡大府町神池下1(〒474) 0562(46)5079

百瀬敏雄

工学部応用化学科 東海高
知多郡阿久比町福在 (〒47022) 05694(8)-0364

水野 猛

農学部農芸化学科 一宮高
丹羽郡大口町豊田二見 65(〒480-01) 05879(5)-1756

柴田哲雄

農学部林産学科 一宮高
一宮市西通15010(〒4911) 一宮(73)-2884

鈴木真吾

農学部農芸化学科 豊橋東高
名古屋市中千種区東山通5丁目88番地
豊橋市蒲郡市三谷町東前 62(〒443)

2年生

加藤幸雄

法学部 時習館高
12-1 豊橋市秋谷町 64(〒440) 0532(52)-1875

砥井次雄

12-2 法学部 伊勢高
名古屋中昭和区荒田町 3018 豊橋市(〒466)
12-3 法学部 豊橋市(〒466)

北川 良二

12-12 工学部 東海高
名古屋市中区南鷹匠町 2016(〒451) 15511-7678

青山博美

12-23 工学部 東海高
名古屋市中区五木町 2047(〒466) 13211-0762

平田雅司

12-25 農学部 時習館高
名古屋市瑞穂区
12-26 豊橋市神野新田町井田 124(〒440) 0532(34)0166

1年生

津田陽子

1-12 文学部 瑞 陵 高 0562(8)-5835

浜野公夫

1-33 経済学部 45 (〒464) 明維秀敏方
〔備考地〕名古屋市中種区松竹町2045

設楽 敏

S1-32 理工学部 山形東校
名古屋市中種区赤坂町1094 野方(〒464) (〒11)-7381
〔備考地〕山形県山形市中野300(〒990)

近藤吉隆

S1-14 工学部 岐阜 校
岐阜市中瑞雲町107(〒500) 0562(46)-9693

小中 力

S1-14 工学部
名古屋市中種区千種本町3018 熊沢方(〒464) (1931)-1457
〔備考地〕滋賀県近江八幡市松木町B12(〒503) 07483(2)0355

向火田賢一

S1-14 工学部 岐阜北校
名古屋市中種区西庄東桃 杷島225松原方(〒451) (1331)-4132
〔備考地〕岐阜県大野郡瀬戸村大字見座638(〒509-33)

追記、なお、住所変更がありましたら、当編集委員会へ、

お知らせください。

S45. 12. 13.

● 件さんのお父さんが亡くなられました。ご冥福を。

部長、高木義明氏から堀井次雄氏へバ
トンタツナ。なお、高木前部長は總裁
に就任。(十一月)

名大郷研のではなく、名大郷研の部
員名簿が名簿作制委員会（杉浦孝委員
長）によって発行されました。か
ころどころ、「ティーン」と「ゴホンゴ
ホン」となっており、非常に困りました。

谷及山・横蔵寺踏査は11月29日に行な
われましてが、途中、みぞれにあ
い、中途変更を余がなくさせられまし
たが、非席で成果をおさめ終
ました。(踏査者、金藤隆氏)

や。と、ここに「のすたるじす号」を
 約9ヶ月ぶりに発行することができました
 。ところで、第8号は、新入生歓迎、名大
 祭、特集号として出されるはずのものでした
 が、例年通りの慣例によって（？）遅れに
 、遅れ、ついに遅れることの新記録をじゅ
 立する結果となつてしまいました。このこ
 とは、現在の部内の先輩ムードにも基因す
 ると思ひますが、まず第一の原因は、編集
 委員会の体制が整わなかったことがあげら
 れました。そして、年末もおしこまれて
 きて、原稿提出を催促したことは編集委員
 会として、どうもすっきりいたしませんし
 、のすたるじす本来の性格を失せる結果と
 なりかねないと思ひます。
 とにかく、年内にこの第8号を発行でき
 、ホットしたところですが、次回、のすた
 るじす9号（卒業生特集号予定）にては、
 体制をしっかりと、編集の充実した「のす
 たるじす」にしたいと思ひます。
 なお、今回の新入生歓迎号なのに、一
 年生の仕事ばかりになつてしまつたことを
 記しておきます。
 追記・郷土研究会会則をのせておしまし
 た。(R・K)

他 美 和 学 館 内 印刷所
 博士 考 字 年 月 24日
 山 甫 大 5 月
 青 杉 屋 4 販 お
 料 ン 古 和 市
 資 材 名 昭 基
 大 紙 名 表 所 日 印刷品
 非 印 和 壳